# RBMT｜条件と結果を残す

日本版リバーミード行動記憶検査 Clinical record / 01

氏名・ID：_____ 年齢：_____歳 評価者：_____

評価日：____年____月____日 使用版・並行版：_____

## 1 実施前にそろえる条件

| | |
|---|---|
| 見え方・聞こえ方 | 眼鏡・補聴器・視野等： |
| 教示の理解・反応 | 言語理解・表出／移動・上肢操作： |
| 覚醒・疲労 | 睡眠・体調・服薬／休憩： |
| 受検歴・環境 | 前回の日付・版／場所・同席者： |

## 2 正規用紙の得点を転記

粗点の換算は正規用紙で行います。未実施・判定不能を0点に置き換えません。

| | |
|---|---|
| 標準プロフィール点（SPS） | _____ / 24 |
| スクリーニング点（SS） | _____ / 12 |
| 開始・終了／中断 | _____ ／ _____ ／ 理由： |

## 3 年齢区分と照合する

| 年齢区分 | SPSのカットオフ | SSのカットオフ |
|---|---|---|
| 39歳以下 | 19点以下 | 7点以下 |
| 40〜59歳 | 16点以下 | 7点以下 |
| 60歳以上 | 15点以下 | 5点以下 |

カットオフ以下は記憶障害が疑われる目安です。得点だけで診断や生活の自立を決めず、反応・実施条件・生活場面を合わせて確認します。

比較した年齢区分：_____ 確認した資料：_____

結果の解釈に影響した条件：_____

出典：JEED「高次脳機能障害者の復職におけるアセスメント」資料集、RBMTの項。正式な実施・換算は日本版の正規資料をご確認ください。

# RBMT｜反応を具体的に残す

得点だけでは伝わらない経過 Clinical record / 02

氏名・ID：_____ 評価日：_____

## 4 課題別の行動観察

正式な実施順・遅延・促しの規定に従います。直後と遅延は区別し、実際の発言や行動を記入します。

| 課題のまとまり | 自発反応・誤りの内容 | 規定の促し後／条件 |
|---|---|---|
| 姓名 | | |
| 持ち物 | | |
| 約束 | | |
| 絵 | | |
| 物語（直後／遅延） | | |
| 顔写真 | | |
| 道順（直後／遅延） | | |
| 用件（直後／遅延） | | |
| 見当識と日付 | | |

## 5 解釈に必要な補足

視聴覚・言語・移動などの影響：_____

規定外の援助・中断があった場合：_____

この欄は課題をまとめた観察メモです。採点項目の数・配点表を表すものではありません。正規の得点記録と併せて用います。

# RBMT｜生活で確かめる

覚えることから、用事の完了へ Clinical record / 03

## 6 生活支援の計画

| | |
|---|---|
| 本人にとって重要な用事 | |
| 困る場面・確かめる仮説 | |
| 試す支援／確認する日 | |

## 7 合図から完了までを分けて記録

例：通知に気づく → 予定帳を開く → 用事を実行する。下の5機会は生活記録の枠で、RBMTの採点基準ではありません。

| 日・場面 | 合図に気づく | 確認する | 実行・完了 | 必要な援助 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |
| 4 | | | | |
| 5 | | | | |

## 8 カルテ・申し送り

架空例：合図には反応するが用件の想起に促しを要した。生活では通知に「予定帳を開く」と表示すると確認できたが、準備開始に口頭の促しを要した。次回は確認から完了までを観察し、自力実行回数と援助内容を記録する。

今回の事実／次に確かめること：

| |
|---|
| |
| |

正規資料：千葉テストセンター「日本版リバーミード行動記憶検査【増補版】」（2023）。参考：数井ほか（2002）、Kazuiほか（2003）、Velikonjaほか（2023）。

STROKE LAB編集の転記・観察用紙。正式な教示・刺激・採点は日本版の正規資料をご確認ください。